

令和6年度

中学生の

「税についての作文」

入選作品集

日野市



南多摩納税貯蓄組合連合会

※受賞者の方から承諾を得られた範囲で掲載しております。

日野市長賞

みんなの税金の使い道

日野市立日野第一中学校

三学年 松尾 くるみ

私にとって一番身近な税とは、消費税だ。

何かお店で買うたびに払わなければいけないため、以前は「消費税がなければもっと安く買い物ができるのに」と思っていた。しかし今は、税金は私達の生活に必要なものであり、納税が義務であることがよく理解できる。

税金の必要さを改めて感じた出来事が、今年の元旦に起きた能登半島地震だ。この地震によって、多くの方が避難生活を強いられている。避難所で自衛隊の方が炊き出しをしていたり、倒壊してしまった家の撤去をしたりするのには税金が使われているのかなと思った。災害があつたときに税金が使われるのは当たり前のように感じていたが、私が生活の中で何気なく払っている消費税などが支援に使われているかもしれないと思うと、手助けをしているようで少し嬉しい気持ちになった。私は中学生で、まだそこまでたくさんの税金を払っていないため、税金で人を助けるというよりは税金に助けられて生活している。例えば、身近では学校で使う教科書が無償で配られていたり、医療機関を受診するときには費用が安くなっていたりして、これらの費用は税金でまかなわれている。とても便利だしありがたいことだなと改めて感じた。

一見プラスの印象を受ける税金の使われ方だが、最初は三パーセントだった消費税が十パーセントに増税されているところから、実

際には課題もあるのではないかと思い調べてみた。すると、国の収入は税金が六割に対して、三割ほどは公債金という国の借金だということが分かった。公債金は年々増え、今年は返さなければならぬお金が約千百五兆円私達が収める税金の約十六年分になると見込まれている。その理由の一つが少子高齢化が進み、年金や介護などに税金をかけすぎているからだそうだ。

私は少子高齢化について考えることが税金にも大きく関わってくるため、税金の使い方と少子高齢化について今一度見直し、議論することが大切だと考える。もちろん年金や介護に税金を使うのは必要なことだが、この先の未来を考えると、国民みんなの税金の多くの割合を高齢者に使うのは限界があると思う。まだ能登半島地震の復旧は終わっておらず、困っている方々がたくさんいる。地震から八ヶ月が経とうとしている今でも、家が倒壊してしまつたままそれらの撤去がまだされていない所もあるそうだ。だから私は自然災害の被害を受けたり、生活に困っている方に税金を多く使うべきだと考える。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

毎日の暮らしを支える税金

日野市立日野第二中学校

三学年 渡辺 愛友子

図書館の棚にずらりと並ぶ本。エアコンの効いた室内で本を読む人々。私は本が好きで、毎週のように図書室に通っている。それなのに中学生になるまで、今読んでいる本は誰のお金で買ったのかなど、考えてみたこともなかった。

私が「税」というものに初めて興味を持ったのは、中学二年生の冬、税務署への職場体験だった。税務署へ行くと決まったとき、私は「難しそうだな」と思った。税について知っていることといえば、確定申告や所得税、差し押さえといった言葉だけで、それについてもはつきりとした知識があったわけではなかった。私と同様、この漠然とした「難しそう」というイメージから、税について学ぶことを避けている人は多いのではないだろうか。

税務署でDVDを見せてもらった。税のない世界を描いたもので、そこでは子供たちは必要な教育を受けられず、学校へ行きたければ自分で働くしかない。救急車やパトカーはお金を払わなければ来てくれない。泥棒に入っても警察を呼ぶことすらできない。税がなければ、当たり前前の生活は当たり前ではなくなってしまう。とても恐ろしい話だと思った。

色々な部署へ行って、そこで働く方々に話を聞いた。税というものが、思っていたよりずっと密接に暮らしと結び付いていることを

知った。例えばゴミ処理や医療にも税金が利用されている。日々の暮らしに使われる費用を賄うために、五十種類もの税金が課せられているということを知った。私が暮らす日野市の年間の歳入はおよそ七億円、そのうち百億円もが、私たちのための教育費として使われている。私も大きくなったら、次の世代のために働いて社会を支えていかなければならないと思った。

町を歩いているとき、今では気付くことがたくさんある。税のおかげで歩道はきれいに整備されていて、ベビーカーや車椅子の人でも通りやすそうだ。交番では警察の人が、二十四時間町を守っている。家の前に出したゴミは定期的に片付けられ、学校から帰ってくる子供たちの笑顔が明るい。

税金には深刻な問題がいくつもあるということを知った。例えば少子高齢化の進行により、年金などの社会保障の費用を負担する働き手は減り、一人あたりの税の負担は大きくなり続けている。私たち子供の世代が高齢者になる頃には、年金の制度はなくなっているかもしれない。今の私にできることは、そんなに多くはないのかもしれない。それでも、百円のお菓子を買ったとき余分に払う十円が誰かの役に立つのなら、誰かの笑顔につながるなら、税金を払う意味は十分にあると思う。今、私にできることは、学ぶことだ。今度図書館に行ったら、物語だけではなく、税についての本も借りてみたい。社会について少しでも知ることが、私にできる第一歩だと思うから。

南多摩納税貯蓄組合連合会会長賞

お金は湧いて出てこない

日野市立日野第四中学校

三学年 山下 将

最近外を出歩く度にサイレンの音を耳にする。その多くは救急車だ。救急車はそれこそ幼い頃から大体の人が知っているモノの一つだ。

私たちが救急車を呼んでもお金が掛からないが、勿論無料ではない。その費用を賄っていることは殆どの人が知っていると思う。他にも道路が整備されていて、信号が光り、学校では教科書が配られる。税金は身近な多くの所に使われている。折角の機会なので、少しでも税に対する理解を少しでも深められたらと思う。

先月とあるイベントの自衛隊のブースで現役の方と少しお話をした。主に災害派遣活動の話であったが、やはり第一線で活躍されている方の話は感じるものがあり、いざという時に頼りになる自衛隊や、24時間³⁶⁵日町の安全に尽くして下さっている警察、消防のために使われている税金は誰しもが納得する正しい使い方であり、改めて警察、消防、自衛隊の方々には頭が上らない気持ちだ。

税金に対して肯定的な面もあるが、なにしろ私も人間。否定的な面もある。

インターネットに触れていると生活保護に関する情報も知る機会がある。とても言いにくいが生活保護を受けなくても生活できるような人が受給しているという情報も流れてくる。そのような情報を目にする度、本当に緊

迫した状況に置かれた人の元に行き届いているのかと疑問を抱く。

もう一つ当てはまるのが年金。幸い私の家系に年金で困った者はいませんが、テレビで年金受給者が少ない額でやり繰りしている姿が紹介されていると胸が痛む。それと同時に少子高齢化が進んでいる現状、私の世代が年金を受け取るようになった時の不安も訪れる。そのためにも税金の使い方は見極めていく必要があると思う。

税金は誰もが納得のいく使い方をしている例も数多くあるため、私は税金を無くせなどと考えたことは一度もない。ただ過度の税金を徴収することはいかがなものかと思う。国には使い方を今一度見直すべきだと提案したい。そうしていただかないと私たち国民の生活は苦しくなる一方だ。私たちの税金が私たち国民の為に正しく利用されることを心より願う。

東京税理士会日野支部長賞

税金が人を幸せに

日野市立大坂上中学校

三学年 田所 楓香

私の兄は、私立高校に通っていました。学

費を見たときに私の家族は驚きました。高校はこんなにお金がかかるのだと知りました。

私の家庭では、私立高校の学費を払うのは困難でした。そのとき、導入された制度が、年収が少ない世帯は高校の授業料が免除になる制度です。ちょうど、私の兄から、その制度が導入されて私の家庭はものすごく助けられました。その免除のお金はどこから来ているのかというと、税金です。私の家族は税金に助けられたのです。今は、年収関係なく、どの世帯でも私立高校は授業料が無償化されています。私立高校の授業料が無償化されたことで、以前に比べて、お金がかかるから行くことを諦めていた人が減り、私立高校に入る人が増えています。同時に、将来の選択肢が広がる人も増えています。

兄は高校を卒業後、大学に進学しました。私立大学は高校よりお金がかかります。そのとき、奨学金を借りました。奨学金には、色々な制度があり、その中でも税金から使われている奨学金もあります。税金は、高校を越えて、大学でも多くの人を助けているのです。

税金は、日本の社会を支えています。私は、正直、二〇一九年の十月一日から消費税が八%から十%になったときは嫌でした。でも、今は、税金に感謝していることが多いです。来年、私は受験ですが、私立の授業料の

無償化がないとしたら、今頃、ずっとソワソワしていると思います。もし、都立高校に入れなかったとしても、私立の無償化が支えてくれているので、心強いです。たくさんの中

学三年生のストレスが減り、受験勉強に集中して励むことができていると思います。

今、中学生の私が、国に払っている税金は、消費税しかありません。そのお金も親が必死に働いてくれたお金です。大人になったらたくさん種類の税金を払うと聞きます。そのときに、自分が一生懸命に働いたお金がとられて、嫌な気持ちになることもあると思います。私は、嫌々、税金を払う人にはなりたくないです。この税金はシングルマザーの子育て支援に使われていたり、実力があるのに学費が高いからといって、大学に行けない人を支援できることを頭にいれながら、払っていききたいです。

私達が無気なく過ごしている生活は税金に支えられています。この生活がずっと続くだろうと安心せず、1日1日をしっかりと生きていきます。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

ゴールを知って変わる印象

日野市立日野第一中学校

三学年 大高 瑠香

税の作文に書く内容を考え始めてから約十日、良い題材が見つからず、何も書けずにした。それは、一〇〇円のお菓子を買うにも税金は一〇円かかるなど、税に良い印象を持てていなかったからだ。

「今週、掃除当番か。」

月曜日によく聞く言葉。ほとんどの人がこのような言葉を一度は耳にしたことがあるだろう。この言葉を嬉しそうに言っている人はあまり見たことがない。確かに、私も掃除当番をやりたいと思うことはあまりない。私が掃除当番になり、教室掃除をするときは、先生に言われたところはしっかり掃除する。だが、教室の隅や黒板のチョーク入れなど、細かいところまで掃除することは少ない。真面目に掃除していないというわけではないが、班全員が早く帰りたいという気持ちを持っているので、隅から隅まで丁寧に掃除をすることはあまりない。

私たちが使っている教室、教科書や机、椅子などの色々な道具はもちろん、学校を建てたり、修理するときにも税金が使われている。私たちが、綺麗で設備が充実した学校に通い、勉強できているのは、税金があるから。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう」教科書の裏表紙に書いてある文だ。教科書を大切に

に使い、長く勉強をし続けることで「期待に応える」ことができると思う。私たちが払うことができるのは消費税だけ。多くの税金を払って社会に貢献することはできないが、私たちが意識して行動することで変わることはたくさんある。教科書を大切に使う、勉強するのはもちろん、教室や机を綺麗に使い、丁寧に掃除をすることでその物を長く使い続けることもできる。

私が税の作文を十日間も書けなかったのは、「税」に良い印象がないからではなく、税金がどこに使われているのかを知らずとしていなかったからだと分かった。税金は、取られているというマイナスなイメージがあるが、実際は自分たちの生活にプラスの効果をもたらしてくれるものだ、と税の作文を書いて感じる事ができた。

今、私たちが毎日当たり前のように使っている教科書も、机も、椅子もすべて税金が使われている。しかし、それらは決して当たり前ではない。「税」という仕組みがあることで、やっと成り立っているのだ。その仕組みのゴールを知らないから、知らずとしないから、私は税金に良い印象を持つことができていなかった。あなたは、私たちの暮らしをより良くする「税」に、良い印象を持っていますか。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

税に支えられた私と感謝の気持ち

日野市立日野第一中学校

三学年 赤坂 晴菜

私はこれまで四度骨折を経験しています。

初めは小学校二年生とき、友達と遊んでいると左足の脛がぽきつと突然鳴り、座り込んでしまいました。時間が経つと、脛は腫れて青くなつてしまい、母と一緒に病院へ行きました。すると先生から、

「疲労骨折ですね。ヒビだから不幸中の幸いだね。」

と言われました。まだ小さかった私でも「骨折すれば運動ができなくなる。」ということはわかりました。私は診察室で泣きました。もともと運動が大好きだったというのも泣いた理由ですが、骨折と診断されたその日は運動会の三日前だったというのがその時一番ショックだったのでしょう。病院を出て、大きな病院への紹介状と松葉杖を手にし、家に帰ったのを今でも鮮明に覚えています。

その後中学校に入学しても、一年生では左手の小指を、二年生では左手の薬指をバスケで剥離骨折してしまいました。また二年生の終わり頃、腰椎分離症という腰椎の疲労骨折が見つかり、発見するのが遅かったため、病院の先生からは、

「これは終末期ですね。しっかり分離してしまっているので治すのはほぼ不可能に近いです。」

と言われてしまいました。そのため私の腰椎は今もくつついていません。痛みが出ること

があるので通院は一か月に二回程度続けます。

私がこの作文を書くにあたってインターネッで調べてみると、私の住んでいる日野市には「子ども医療費助成制度があり、学校などで怪我をした場合は、独立行政法人スポーツ振興センター法による医療費が付給される。」と記されていました。また日野市では十歳までの子どもの保険診療にかかる費用が無償化されていることがわかりました。そこで思い返すと私が骨折した内の三回はいずれも学校での怪我で、スポーツ振興保険を使つて診てもらっていました。また腰椎分離症で通院していますが、日野市が医療費を無償化にしていることで、私は通院時、医療費に対する心配や不安といったものはなく、安心して病院に通うことができます。今の私は「税金」のしくみにとても助けられています。

また、自分の周りには「道路」や「学校」といった様々なものが税金によって存在しています。税金は医療のみならず、私たちの日常生活の些細なことにも関係しているため、税に対する「感謝」を忘れずに日々過ごしていきたいです。そして私が将来大人になった時に社会の一員としてより税に関わるからこそ今から税について調べて、考えることで、今後税金の在り方についてしっかり意見を持ち、納税といった行動に移していきたいです。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

「世界の消費税と日本」

日野市立日野第一中学校

三学年 平水 明依

日本では現在、何か物やサービスを購入した際、10%の消費税を追加して支払っています。つまり、百円のお菓子を買ったら元の値段に追加して、十円の消費税を払う必要がありますということです。世界には、アメリカのように消費税が無い国もあります。そう聞くと羨ましいように聞こえますよね。一方世界には日本よりも消費税が高い国があります。今回は、そんな世界の消費税事情と、それを調べていく中で感じたことを書いていきます。

まずは、世界の消費税についてです。イオン銀行の記事によると、二〇二三年一月現在、日本の消費税の標準税率は第二十位です。これは、消費税がある全二十五国中の順位です。

第一位の国はハンガリー。標準税率は、なんと二十七%です。第二位はデンマークやスウェーデンが同率。第三位はアイルランドなどと、上位の国はどれもヨーロッパが多くの名を連ねています。では、なぜヨーロッパは消費税が高いのでしょうか。私はとても疑問に思い、それについてネットで調べてみました。

アットダムというサイトによると、「全てのEU加盟国は、EUの基準法令である『VAT指令』により、標準税率を原則15%以上とするよう義務づけられている」そうです。VATとは付加価値税のことで、製造・流通の過程で付加される価値のことです。そのような事情により、EU加盟諸国は消費税が世

界でも比較的高いのです。また他のサイトでは、「消費税が高い国は教育・福祉が充実している」という情報がありました。例えばフィランドでは、ほとんどの大学は教育費が無料です。スウェーデンでは医療費が子供の場教育費や医療費をカバーしていると言えます。一方日本では、税金は公立学校の教育費や橋などの建設に使われています。

先ほども言ったように、世界にはアメリカのように消費税が無い国もあります。しかし、消費税が無い国にもそれなりにデメリットはあるようで、税率の低い国は資金洗浄や脱税といった犯罪の温床になりやすいそうです。そのため近年では国際的に問題視されています。そう考えると、消費税が高いからと言って悪いとも思えず、むしろ犯罪も起こりにくく、福祉も充実しているので魅力的に見えてきます。

私は、今回世界の消費税について調べ、今までと考えが変わりました。今までは、消費税に対して少し悪い印象を持っていました。ですが、今回色々な国の消費税について調べ、消費税があるおかげで私達の教育費が負担されていると考ええると、とてもありがたいなと思いました。これからは、消費税だからと悪い印象を持ちネガティブに捉えるのではなく、その税金が何に役立ち、私達の未来にどのような影響を与えているのかを考えてみようと思います。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

高価なのに安い果物が届く？

日野市立日野第二中学校

三学年 山本 怜奈

私の家は定期便で果物が届く。それは「ふるさと納税の返礼品」として様々な県の新鮮で高価な果物である。どのようにして定期便で普段食べられないような果物が届くのか。私は「ふるさと納税」の仕組みや目的について調べることにした。

平成二〇年に「ふるさと納税で『地方創生』ふるさと納税で日本を元気に！」というスロ―ガンのもと施行された。

ふるさと納税の受け入れ額は初年度である平成二〇年は八十一、四億円で、昨年令和五年度には一万千七百七十五・〇億円と右肩上がりで上昇している。ふるさと納税が施行された当初は確定申告を行う必要があり、手続きが大変であったが、平成二七年度には確定申告の不要な給与所得者等はふるさと納税先の自治体数が五団体以内である場合に限り、ふるさと納税を行った各自治体に申請することで確定申告が不要になる「ふるさと納税ワンストップ特例制度」が始まった。これにより手続きが簡単になり、より多くの人々が行うようになった。

私の家では父親にいつからふるさと納税を行っているか聞いたところ、令和二年からであった。インターネットのサイトから返礼品を検索して申し込む。申し込みの際に「市長に一任」や「子ども・子育て」「教育・人づくり」等、寄付金の用途を選択できるのがほと

んどである。

次に納税受入額、市長村民税控除額の多い市町村について調べてみた。令和五年度における納税受入額では宮崎県都城市が一位で、二位は北海道紋別市、三位は大阪府泉佐野市であった。市町村民税控除額は一位神奈川県横浜市、二位愛知県名古屋市、三位大阪府大阪市となっている。納税受入額が多い市町村の返礼品を調べてみると、海産物や牛肉等、食べてみたいと思う食品であった。市町村民税控除額が多い自治体はどこも大都市の市町村である。これらから主に大都市から地方に納税されていることがわかった。

ふるさと納税の寄付額には所得額等に関連して上限額が定められているが、私の家では上限額の半分程度は使用していない。なぜかと父に尋ねると、地元の日野市は「財政非常事態宣言」を行っており、他自治体へ寄付をして、地元の税収が下がることを考えているから、とのことでした。私が疑問を感じたのは地元にはふるさと納税ができないこと。また恐らく大勢の人が返礼品の欲しさだけで、納税場所が選ばれていること。本来の目的である「ふるさと納税で『地方創生』ふるさと納税で日本を元気に！」を実現するため、納税者一人一人が考えなくてはならないと感じた。ポイント廃止のニュースを最近見たが、大した問題ではないと思う。他自治体に寄付をして、地元が苦しむのは本末転倒である。

とはいえ9月に届くであろうシャインマスカットが届くのを楽しみにしている私がいる。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

税金の使い方について

日野市立日野第四中学校

三学年 平栗 和真

私は税金の使い方について、男女の賃金格差の解消に使うべきだと考えます。なぜなら今の日本の特筆すべき課題は、少子化にも深く関わっている出生率の低下であり、出生率の低下は男女の賃金格差とも関わりがあるからです。

なぜ今の日本の課題が出生率の低下だと言えるのでしょうか。もし出生率が上がれば、一人一人が負担する量が減ります。消費税などの累進課税ではなく逆進性の税金の税率が下がる見込みもあるでしょう。しかし、急速に少子高齢化が進行している今、税率を上げるを得ない世の中になっています。だから、出生率の低下は日本の大きな課題であると言えるのです。

次に、出生率の低下と、男女の賃金格差の関係についてです。日本は世界で出生率が低いグループに分類されています。私が、なぜ出生率が低いのだろう、と考えたときに、要因として浮かんだものが「女性の家事の負担が大きい傾向にある」ということです。実際に私もメディアを通じて、「最近、育児・家事が凄く大変だから結婚をためらう、家事についてのトラブルから離婚に発展してしまう人が多い」と耳にしたことがあります。

なぜ女性の家事の負担が大きいのか。それは、女性の家庭内での地位が低いからだと思っています。世の中には、「男尊女卑」という言葉

があります。男性を優先させ、女性は男性に従うべきだという考え方のことです。この考え方を生み出している原因の一つが「男女の賃金格差」なのです。男性の方が賃金が多いから、必然的に男性が働きに出ます。となると、家計の主な収入源は、男性の賃金となり男性が家計を支えていると言えるので、男性の地位が過度に高くなってしまっているのです。

この流れを見てみると、男女の賃金格差によって引き起こされる問題は、「結婚者数の低下」「離婚数の増加」「女性の家事の負担の増加」「出生率の低下」「少子化」のように、数多くあることがわかります。新型コロナウイルスも落ちついてきて、数年前よりは余裕が生まれたでしょう。そんな今だからこそ、私はこれまで挙げてきた問題を解決へ導ける可能性があり、より互いの人権を尊重し平等に暮らしていけるように、「男女の賃金格差の解消」のために税金が使われるようになればいいなと考えます。そして、多くの人が満足して暮らせる社会への一步になれば良いなと思います。